



JALT JSL SIG NEWSLETTER

Issue # 15 (2) [serial 36] Summer 2018 (夏号)

JSL 会員の皆様、

暑中お見舞い申し上げます。猛暑が続
き、花もしおれかけていますが、先日、威
勢のいいグラジオラスを見つけました。



本号では、JALT2018 年次大会での
JSL フォーラムの日程が承認された
ので会員の皆様にお知らせできます。詳
細は、2 ページをご覧ください。

JSL Coordinator
Megumi Kawate-Mierzejewska

This issue starts with SIG news
business reports including Call for papers
for JSL SIG News Letter (NL), information
about the forthcoming conferences. You can
then find one of the feature articles entitled
“Learning form Learner’s Corpus of
Japanese” introduced by Yuriko Sunakawa,
and another article entitled “Language usage
in *Hansen’s* disease “Leprosy sanatoriums”:
in the case of Nagashima-Aiseien and Oku-
Komyoen.” by Chie Yamane-Yoshinaga.

Michiyo Matsuura, then Introduced
“Effective Classroom Management-
the Information and Communication
Technologies (ICT) in Teaching Japanese.”

From Article Review, Erica Kaku
reviewed a web article entitled 『マクドナル
ド、関西ではなぜ「マクド」？』 lit.
“McDonald’s why “Ma-ku-do” in *Kansai*
Kansai region (south-western half of Japan,
including Osaka)”

Finally, the last page shows SIG
membership information.

We would like to express our
appreciation to people who contributed
their articles to this JSL Newsletter, and
kindly supported our editorial team.
The JSL SIG Newsletter editorial team
Megumi Kawate-Mierzejewska,
Yo Kawate

IN THIS ISSUE

Greetings	1
SIG News/Business	2
Feature Articles	3-6
学習者コーパスから学ぶ日本語	3-4
ハンセン病療養所入所者の言語使用	5
日本語教育における ICT 活用を考える	6
Article Review	7
地域差-マクドナルドの略語	7
SIG Information	8

SIG News/Business

▶ Call for Articles: JALT JSL SIG

Newsletter (JSL SIG NL)

You are all invited to contribute your research articles, teaching approaches, updated information, essays or book/article reviews in the area of Japanese language education to the next issue of JSL SIG NL. We accept articles related to JSL/JFL in either Japanese or English. For the next issue, submit your contribution by October 01, 2018, to naganomamo@yahoo.co.jp. Please email naganomamo@yahoo.co.jp for more information as well.

▶ Forthcoming Conferences:

JALT PANSIG2019

JALT PANSIG 2019 will be held at Konan University [Nishinomiya Campus (CUBE)], in Nishinomiya, Hyogo Prefecture, on May 17-19, 2019. **Call for papers will be open October 1st, 2018 through December 22nd, 2018.** Please visit <http://pansig.org/> for details.

You can get further information both in English and Japanese.

JALT 2018

The 44th JALT Annual International Conference 2018 will be held at Shizuoka Convention & Arts Center (Granship) in Shizuoka on November 23th - 26th in 2018.



Please visit

<https://jalt.org/conference> for details.

▶ JALT2018 JSL SIG AGM

It is scheduled for

- **Day:** Saturday, November 24th
- **Time:** 3:45 PM - 4:30 PM (45 minutes)
- **Room:** 909

In this meeting, We will look back our previous activities, discuss plans for future JSL SIG activities, publications, and elect officers for 2019.

▶ JSL SIG Table

A JSL table will also be set to further promote JSL SIG to JALT2018 participants

▶ JSLSIG Forum2018

It is scheduled for

- **Day:** Saturday, November 24th
- **Time:** 4:40 PM - 6:10 PM (90 minutes)
- **Room:** 909

This forum entitled “Teaching Intermediate Level Grammar for JSL” has been coordinated by Professor Sayoko Yamashita at Jissen Women's University, and five JSL educators will present this forum. Please read the next NL (2018-fall issue) for details.

本ホーラムは、山下早代子氏のご尽力により発表の機会を得ることができました。

▶ JALT2018 Conference Registration:

Early Bird Registration will be available until October 23rd (October 1st for presenters).

Please visit the following site for details. <https://jalt.org/main/conference-registration>

Future Articles

学習者コーパスから学ぶ日本語 “Learning form Learner's Corpus of Japanese”

砂川有里子
筑波大学名誉教授

Yuriko Sunakawa
Professor Emerita, University of Tsukuba

近年日本語コーパスが多数構築され、日本語の研究はもとより日本語教育にも活用されている。日本語教育に特に役立つのは学習者の日本語を集めた「学習者コーパス」である。学習者コーパスを使えば、誤用を分析したり過剰使用や過少使用の表現を突き止めたりすることができ、日本語教師の直観では捉えきれない学習者の特徴を知ることができる。さらに、学習者コーパスは母語話者でも気付きにくい日本語の特徴を明らかにするという点でも威力を発揮する。

学習者コーパス「I-JAS」の紹介

学習者コーパスの構築には母語・習熟度・学習環境などが異なる多様な学習者の日本語を大量に集める必要があり、そのことが大規模なコーパスの構築への障壁となっている。しかし、国立国語研究所では、現在、これまでにない規模を有する学習者コーパス「I-JAS」の構築が進められている。I-JASは正式名称を「多言語母語の学習者横断コーパス」と言い、海外と国内で日本語を学ぶ学習者（合計1,000人）、および対照データとして日本語母語話者（50人）の日本語が格納される。特徴としては、①学習者の母語が12言語と多様である、②学習者の習熟度がテストスコアにより参照できる、③統制された多様なタスクによる話し言葉と書き言葉が集められている、④すべての音声データやテキストデータがダウンロードできる、⑤形態素解析が施され、コーパス検索システム「中納言」を使った検索ができる、⑥オンラインで

公開されており、「中納言」の使用申請をすれば誰でも利用できる（<https://chunagon.ninjal.ac.jp>）、などが挙げられる。2020年3月にすべてのデータが公開される予定であるが、すでに段階的な公開が行われており、2018年6月現在では第三次公開により660人分のデータが利用できる。（詳しくは迫田ほか(2016)をご参照ください。）

I-JASの活用事例

I-JASの活用事例として、第一次公開の発話データを使ったテシマウ（「てしまった」「てしまつて」「てしまいます」などの表現も含む）の調査を紹介する。

研究参加者

国内の教室環境と自然環境の学習者、海外のベトナム語、ハンガリー語、スペイン語、フランス語、韓国語を母語とする学習者、全員中級レベルで各グループ15名、および日本語母語話者15名の調査を行った。

研究結果

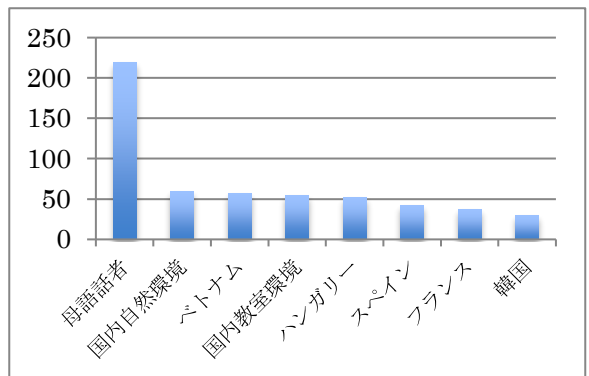


図1 テシマウの使用頻度

図1より、母語話者はテシマウを数多く使用しているのに対し、学習者の使用は非常に少なく、グループ平均で母語話者の21%程度しか使っていないことが明らかとなった。

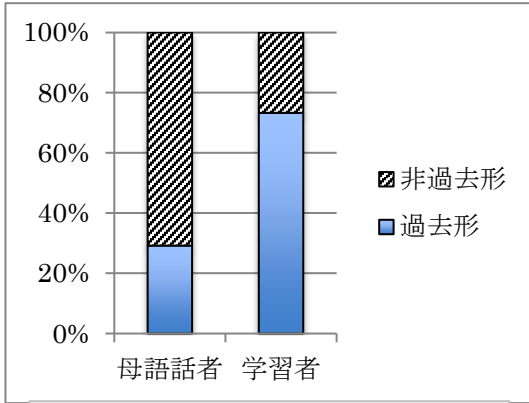


図2 過去形と非過去形の使用率

また図2より、学習者は過去形（「てしまった」「てしまいました」）の使用が多く、母語話者は非過去形（「てしまう」「てしまって」「てしまっている」）の使用が多いこともわかった。

加えて、テシマウの直前の動詞が、学習者では典型的な運動動詞（動きを表す「食べる」「入る」や変化を表す「壊れる」などの動詞）にほぼ限られるのに対し、母語話者ではそれらの他に、「思う」「疲れる」「慣れる」といった内的状態変化を表す動詞や「できる」といった静態動詞を使った次のような例が少なからず観察された（〈 〉内は調査者の発話）。

(1) 私もどこへって言われるとーんー連れていく場所があっただろうかっていうふうに一〈んー〉思ってしまうところがありますのでー

(2) まあそういう訳じゃないですけどそれに慣れてしまって今でもある程度のが起きてまあなんとかなるかなというのはよくないんですけども

(3) 黒田官兵衛はいわゆるエースなので一〈はーい〉なんでもできちゃうんですね

要するに、学習者のテイルは初級の段階で学んだ「完全に済ませることを強調する」と

いうアスペクトの意味と「遺憾・後悔を表す」というモダリティの意味の用法に限られているのに対し、母語話者は、(1)や(2)のように話し手のコントロールの及ばない状況での実現や、(3)のように普通ならあり得ないことの実現を表したりしている。この種の意味は次のように典型的な運動動詞によっても表せる。

(4) 恋に落ちて〈うんうんうん〉えーとその、婚約、すると〈うんうん〉エルサに言ったところ〈うん〉エルサは怒って〈うん〉えーうっかり人前で魔法を使ってしまった

(5) チョコあげたりとかはあいやいないですわね〈あそうなんですかじゃあちよつと印象に残ってる先生というとそのチェッカーズを〉歌っちゃった先生〈歌っちゃった先生ってことですねー、まあでも、嫌いではない？〉嫌いではないですよ

テシマウは初級レベルで「完全に済ませることを強調する」と「遺憾・後悔を表す」という用法として導入される。しかし、中級レベル以降でも初級での既習項目として見過ごすのではなく、何らかの機会に上に挙げた意味と用法の存在を意識させるような指導が必要なのではないかと思う。

参考文献

迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子（2016）
多言語母語の日本語学習者横断コーパス『国語研プロジェクトレビュー』第6巻3号,93-110

砂川有里子（2018）「中級以降で指導が必要なシテシマウの用法についてー学習者と母語話者の使用状況調査に基づく考察ー」
藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』和泉書院, 479-99.

ハンセン病療養所入所者の言語使用
に関する研究— 邑久光明園・長島愛生
園での調査をもとに—

The language usage in Hansen's disease
(Leprosy) sanatoriums — in the case of
Nagashima-Aiseien and Oku-Komyoen —

山根智恵

山陽学園大学 総合人間学部
教授

Chie Yamane-Yoshinaga
Professor, Sanyo Gakuen University

筆者が現在、居を構えている岡山にはハンセン病療養所が2か所ある。瀬戸内市長島にある「長島愛生園」と「邑久光明園」である。長島愛生園は日本初の国立療養所として1930年、長島に置かれた。一方、邑久光明園は1909年に大阪府に開設された外島保養院が、1934年の室戸台風によって壊滅的な打撃を受け、1938年、同じ長島に再興されたものである。そのため、邑久光明園の入所者の言葉には関西方言色が強く、様々な地方から入所者が集まった長島愛生園の言葉は、「愛生弁」と言う人もいるほど様々な方言が混じり合っている。ハンセン病療養所の研究は、日本の場合、戦後プロミンのような特効薬ができたにも関わらず、1996年の「らい予防法」廃止まで隔離政策が続いたため、人権と関わるものが多いが、隔離から解放に向かったハンセン病療養所の言語使用に焦点を充てたものが本研究である。

2014年から2016年に渡る科学研究費・挑戦的萌芽研究（課題番号：26580085「ハンセン病療養所入所者の言語生活」）の現段階での成果（山根智恵・久木田恵(2016) Yamane-Yoshinaga, Kukita (2017)（岡山方言の使用度・理解度のアンケート調査、入所者の談話分析から考察したもの）は次の6点にまとめられる。

1. 岡山在住者と比較し、療養所の入所者の岡山弁の使用度は低い。

2. 療養所の入所者は、岡山在住者と比較し認知度は低いものの、入所者の多くは調査対象20項目の約半数を理解している。

3. 長島愛生園の入所者のほうが、邑久光明園の入所者より岡山方言の理解度が若干高い。

4. 入所者の発話はすべて共通語で話されることはなく、どこかに方言色が見られる。

5. 関西で生まれ育った入所者は、長島に来てからも関西弁を使用する者が殆どである。特に邑久光明園にその傾向が強い。

6. 長島愛生園の中の関西で生まれ育っていない入所者の発話には、共通語、生まれ育った地方の方言、関西弁、岡山弁を交えて話す者がいる。「愛生弁」の代表的なものであると言える。

尚、長島愛生園、邑久光明園については以下のそれぞれのサイトを参考にされたい。

邑久光明園

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/komyo/

長島愛生園

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/aiseien/

今後は談話のさらなる分析を進めるとともに、昨年度両園、韓国・小鹿島、台湾・樂生院の両療養所で行った園独特の言葉についての結果を発表する予定である。

参考文献

山根智恵・久木田恵 (2016) 「ハンセン病療養所入所者の方言受容」『日本語の研究』第12巻4号 p.202

Yamane-Yoshinaga, C., Kukita, M. (2017). *Dialect usage of residents in Hansen's disease (Leprosy) sanatoriums* 16th International Conference on Methods in Dialectology.

<http://pj.ninjal.ac.jp/Methodsxvi/abs/Yamane-Yoshinaga.pdf>

日本語教育における ICT 活用を考える
 —Google Classroom を用いた授業外活動—

Effective Classroom Management:
 The Information and
 Communication Technologies (ICT)
 in Teaching Japanese.

松浦康世 日本大学 国際関係学部
 Michiyo Matsuura
 Nihon University

近年、教育現場において ICT 活用が進められている。体験型学習を促進し、学習者が興味を持って主体的に学ぶことが可能になると期待されている。しかし、ICT を最大限に活用するためにはインターネット接続や端末購入など大規模なインフラ整備を伴わなければならない、十分な環境を持つ教育機関でなければ実践は難しい。本学も決して例外ではなく、学習者が個々にパソコンや端末を利用できる環境にはない。

そこで、日本語教育ではどんな ICT 活用が必要とされているのかを改めて考えてみた。既にプロジェクターで画像や映像を見せることは一般的に行われており、絵カードや板書による作業を格段に効率化することに成功している。それでは、この「授業運営の効率化」以外に、どんな目的で ICT を活用すべきであろうか。

その目的の一つには「既習事項の定着」があると考えられる。例えば、私の担当する中級日本語のクラスでは單元ごとに、予習として単語テスト、復習として漢字テストを実施している。しかし、毎回のテストでは 10 点満点を取る学生も中間テストや期末テストになると同じ問題でも解けないことがある。覚えたことが定着していないのである。授業時間は週 90 分×2 コマと限られているため、授業外でも既習事項を使うことが大切であり、そこに ICT が活用できないかと考えた。

本学では昨年度まで、LMS (Learning Management System) として「Blackboard」を使用してきた。教材の管理、配布、小テスト実施の他、試験の成績管理もでき非常に便利

なシステムであったが、昨年度末をもって廃止されてしまった。そのため今年度より「Google Classroom」の活用を試みている。この使用には大学が Google for Education の契約を結んでいる必要があるが、Gmail やドライブが自由に使えるため、Microsoft 社と並んで Google 社との包括契約を結んでいる大学は多いのではないだろうか。

Google Classroom は LMS として進化を続けてきており、毎年のように新しい機能が追加されている。私自身、使い始めて数か月であるが、既に使いやすさを実感している。また、何よりも学生が使いやすい手軽さが利点である。スマホで簡単にアクセスでき、小テストでも別途ファイルを開く手間がない。以下、活用例を紹介する。

①単語テスト

「問題を作成」機能を使用し、これまで授業内に行ってきた単語テストを授業前に受けさせている。点数は成績に加算される。

②個別指導

学習経験の違いによりレベル差の大きな学生がいることがあるが、授業内で復習の時間が取れないため、個別に問題やフィードバックを与えている。

③ディスカッション

「お知らせ」機能によりスレッドが作成できる。自己紹介をさせたり、学習した表現を使わせる質問をしたりもできる。



これ以外にも、Assignment や Question、Forms を使った課題提示や、Web News を自宅で見せ、授業でディスカッションするなどの反転授業にも利用したいと考えている。

ICT の活用は、学習者が授業の外でも日本語に触れる機会を作ることができ、日本語学習をより身近なものとすることに役立っている。

Article Review

地域差：マクドナルドの略語

参考文献：

『マクドナルド、関西ではなぜ「マクド」?』

日本経済新聞 電子版 2012/1/28

[https://www.nikkei.com/article/DGXNASJB19017_Z10C12A1AA2P00/](https://www.nikkei.com/article/DGXNASJB19017_Z10C12A1AA2P00/?df=3)

Lit. McDonald's why “Ma-ku-do” in Kansai
“Kansai region (south-western half of Japan, including Osaka)”



賀来
恵理香
Erica Kaku

This article shows regional differences in the Japanese speaking community, focusing on Kansai (Osaka), versus※ Kanto (Tokyo).

According to page one of Nihon Keizai Shimbun (issued on January 28, 2012), McDonald's in Osaka is often abbreviated to “Ma-ku-do, whereas it is in Tokyo abbreviated to “Ma-kku.” It seems that people unconsciously use different words depending on their preference. However, according to Professor Shinji Sanada at Nara University, People in Osaka tend to use a word representing three mora putting a stress on the middle character.

(cited in Nihon Keizai Shimbun read on August 21, 2018, p1).

Please refer to

https://www.nikkei.com/article/DGXNASJB19017_Z10C12A1AA2P00/

for the Japanese version.

Moreover you can get further information (e.g., a distribution map

throughout Japan, history, etc.) from the following site.

(https://www.nikkei.com/article/DGXNASJB19017_Z10C12A1AA2P00/?df=3)

※Kanto is Kanto region centered on Tokyo.

Please visit the following site

<https://www.jref.com/articles/kanto-travel-guide.153/>

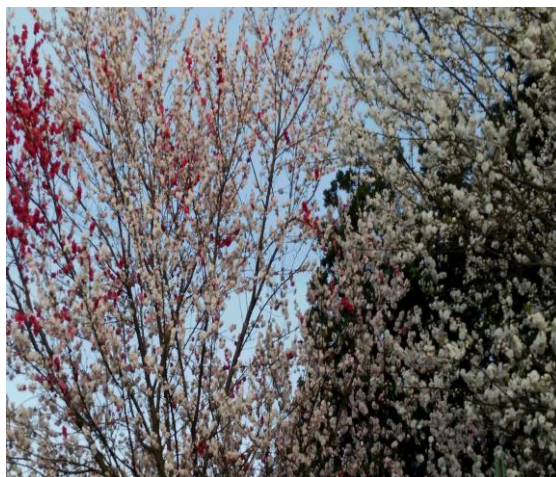
for Kanto region.

☆5 ページから続く☆

以下のスペースを利用して本 NL5 頁の筆者山根氏が紹介してくれた岡山県の方言を紹介しましょう。

◆岡山方言と共通語（ ）内◆

ぼっけー (ととも)、でーれー (ととも)、ちばける (ふざける)、おえん (だめだ)、かなぐる (引っかく)、きょーてー (恐ろしい)、ひる (乾く)、とらげる (片付ける)、けっばんずく (つまずく)、すばろーしー (憂鬱な、不機嫌な)、じりー (水気が多くて柔らかい)、ひっさ (久しく)、みてる (無くなる)、おせ (大人)、～じゃ (～だ)、～けー／～けん (～から)、～まー (～ないだろう)、～ばー (～ばかり)、～やこー (～など、～なんか)、～れー (～なさい)



(写真桃の花：川手撮影：2018 春)

JSL SIG Membership Information

日本語教育研究部会

日本語教育研究部会（JSL SIG）は、第二言語・外国語としての日本語指導・日本語学習・日本語教育研究の向上を目指し、指導・学習・研究のための資料や情報を提供しています。更に、専門家の育成の為の外国語教育における日本語教授法や言語学（心理・社会言語学なども含む）の研究推進にも力をいれています。日本語の指導者・学習者・研究者の積極的なご参加を歓迎致します。

▶ 日本語教育研究部会メンバー募集

本部会 JSL SIG は現在 45 名ほどの会員がおりますが、会員数を増やし更にネットワークを広げるべく、常時会員を募集しています。皆様の同僚やお知り合いなどにも、是非ともご周知下さい。

▶ 会員のメリット：

1. 論文集『JALT 日本語教育論集』に投稿できる（2年に1回発行、査読あり）
2. 定期的にニュースレターが配布される
3. ニュースレターに論文や学会レポート、日本語の教え方・学び方、その他会員の学会発表・研究テーマ・教授経験など、紹介したい記事を投稿できる
4. JALT や PanSIG の JSL SIG フォーラムに、発表者として参加できる（興味のある方は jsl@jalt.org まで）
5. 入会方法は、JALT ホームページをご覧ください。 <http://jalt.org/main/membership>

Urban Edge Bldg 5F, 1-37-9 Taito,
Taito-ku, Tokyo, 110-0016, JAPAN
Tel: 03-3837-1630 Fax: 03-3837-1631
<http://jalt.org/>

SL SIG Mission Statement

The mission of the Japanese as a Second Language Special Interest Group (JSL SIG) of the Japan Association for Language Teaching (JALT) is to serve as a resource for promoting JSL/JFL teaching, learning and research. We welcome JSL/ JFL teachers, learners, and researchers to join and take an active role in our SIG.

JSL SIG Membership

The JSL SIG currently has around 45 members. To expand our network and share JSL information more dynamically, invite your colleagues and friends to join!

Benefits of being a member : Be able to

1. Contribute a paper to the peer-reviewed *JALT Journal of Japanese Language Education*, which is published bi-annually.
2. Receive SIG newsletters per year.
3. Contribute articles, conference reports, teaching ideas, students' essays, call for papers, etc. to the SIG newsletter.
4. . Participate the JSL forums as a presenter at the PanSIG and/or the JALT annual conference (contact jsl@jalt.org)
5. Please refer to the JALT membership categories and fees on the JALT homepage. <http://jalt.org/main/membership>

